HANACO
はなこ
HANA COMMUNICATION PAPER
http://www.fukuhana.jp/

2014
5·26
No.23

［特集］
2014年「母の日」(5月11日)商戦。現状リポート

- ● PICK UP FLOWER SHOP あなたの街の花屋さん
- ◎ 母の日商戦　今年の母の日商戦の動向
- ◎ 花の慰霊祭
- ◎ 10万本のチューリップが博多〜天神間の道に咲き誇る「福博花しるべ」開催
- ● 地方委員・専門部会役員研修会をリポート

青、紫、赤などさまざまな花をつけるアジサイは梅雨の風物詩。
咲きはじめは淡緑色で、次第に濃く変わることから「七変化」とも呼ばれています。
日本最古の和歌集『万葉集』で詠われていたほど古くからなじみがあります。
しとしとと降る雨に濡れて、いっそう鮮やかさを増す花は雨の日の憂鬱な気分を吹き飛ばしてくれそうです。
アジサイの名所といわれる公園やお寺などもあります。
傘を片手にでかけてみませんか。

PICK UP FLOWER SHOP　vol.23

レンガ色の三角屋根が目印。JR中津駅構内に姉妹店がある

JR中津駅から車で5分の当店は、創業昭和10(1935)年の花屋です。平成21年から保育園や幼稚園で花育をはじめ、今までに29回開催しました。一般的には花壇づくりやアレンジを教えることが多いのですが、当店では紙芝居や手品を交えながら花の成長を説明したり、好きな花を自由にアレンジさせたりして、自然の恵みや命のありがたさ、感謝の心を育んでもらえるよう工夫しています。

現在の花業界のニュースといえば「花き振興法」。平成26年内には可決する見込みです。可決されれば生産面において国際競争力が強化され、需要面では日本の「花き」における伝統や文化がより浸透することになるでしょう。このことは、花業界にとって大きな追い風です。国産の花は外国産に比べて鮮度も品質も抜群。生産者の方には、日本人の物づくりの精神で、自信と誇りをもって花づくりを続けてほしいですね。

広い店内には所せましと花が並ぶ

レンガの壁に囲まれたプリザーブドフラワーのコーナー

FLOWER SHOP
池田生花店
（セリ番号405）

DATA
所在地:大分県中津市沖代町1-5-38
TEL:0979-22-0171
FAX:0979-24-0878
営業時間:9:00〜19:00
休み:無休

花き専用農薬、という選択。
花き類の主要病害虫を一度に予防する「フラワープロテクター」
病害虫の総合対策に
花華やか 顆粒水溶剤

■ お求め・お問い合わせ
福岡県花卉農業協同組合 購買課（直通）　電話:(092)621-6411　FAX:(092)612-0316

地方委員・専門部会役員　合同研修会を開催しました。

平成26年3月24日（月）、福岡市博多区のホテルセントラーザ博多にて、平成25年度地方委員・専門部会役員合同研修会が行われました。当日は、年度末の忙しい時期にもかかわらず、地方委員から27名、専門部会役員から18名に出席いただき、盛大に開催することができました。

研修会では、九州農政局生産部園芸特産課花き係長の牧枝竜二氏、株式会社ジャパン・フロリカルチャー・ホールディングス代表取締役会長（兼　株式会社JF鶴見花き代表取締役社長）増田富洋氏の両名を講師に招いての講演が行われました。

牧枝竜二氏は、「花き振興法（仮称）および国産花きイノベーション推進事業について」という演題で、研修当日までの状況を説明いただきました。

国産花きイノベーション推進事業とは、平成26年度の産地活性化総合対策事業の一つであり、平成26年度の予算において5億円が盛り込まれました。おもな内容としては、政策目標である国産花きの産出額の拡大（平成23年の367億円から平成27年には402億円をめざす）と、花き輸出額の増大（平成24年の83億円から平成32年には150億円をめざす）を達成するために、「花き関係者の連携への支援」「国産花きの強みを活かす生産・供給体制の強化」「国産花きの需要拡大」についての取り組みに対して補助を行う事業です。

さらに、平成26年度通常国会に提出予定の「花き振興法（仮称）」についても説明がありました。この法律は、観賞用の花きの生産を国や地方自治体が支援することを定めたもので、生産者の経営安定、輸出の促進、公共施設やまちづくりでの花の活用などを支援することなどが掲げられています。消費が伸び悩む花き業界にとって大きな追い風となりうる説明に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

増田富洋氏の講演の演題は「花き流通の現状と今後の展望について」。花き流通の過去を振り返りつつ、状況が激しく移り変わる現状を見つめながら今後についての思考をめぐらせるときに、自分の視点を変え、プロフェッショナルとして前向きな思考が必要になるというお話です。ご自身の経験から導き出された未来に進むための地図や、成功の方程式の作成方法についてわかりやすく説明いただきました。また、市場の経営者としての考え方、生産者の方への提案、成功した事例などの紹介もあり、講演が終わった瞬間には、会場から盛大な拍手が起こりました。

この研修会は、地方委員と専門部会役員を対象に毎年開催しています。職員も参加しており、参加者と一緒に勉強しています。今後も組合員のみなさまと一緒に学び、みなさまの営農を支援していきたいと思います。

［はなこ］5月号 2014年5月26日発行
通巻112号
●発行・編集
福岡県花卉農業協同組合
〒812-0064
福岡市東区松田1丁目3番20号
TEL:092-621-6767
FAX:092-611-0139
Email:info-fukuhana@ja.fukuhana.or.jp
http://www.fukuhana.jp
●企画・印刷（株）プリテックフクオカ
編集・（株）クロス編集事務所
デザイン・シゲ デザイン
HANACO はなこ

特集　5月11日 母の日

2014年「母の日」商戦。現状リポート

17年ぶりの消費税増税。4月1日に消費税率が5％から8％へ引き上げられ、いたるところで商品やサービスの価格改定が行われるなか、「3％の重み」を感じている人も多いのではないでしょうか？　2月3月には、日本中が「駆け込み需要」に沸き、生活に必要な日用品が買いだめされたのはもちろんのこと、購入予定のあった高額商品を前倒しで購入する動きがありました。鉄道各社も料金を値上げするため、定期券を3月中に購入した会社員も多かったようです。

増税開始によって一時の消費ブームは終わりましたが、その一方で懸念されていたのが、増税後の「買い控え」でした。このような状況下で迎えた5月商戦の「母の日」。今回は、花き業界最大のイベントである、お母さんに日ごろの感謝の気持ちを伝える「母の日」をリポートします。

■事前の意識調査では、母の日ギフトは男女ともに約9割が「贈る予定」。予算増額も2割近くに

パナソニック株式会社による20代から60代の男女1000名を対象とした「母の日ギフトに関する意識調査」が公開されました。

まず、20代から40代の男女を対象に「今年、母の日ギフトを贈る予定はありますか？」と聞いたところ、87％と9割近くが、「母の日ギフトを贈る予定」との回答がありました。お母さんへ向けた気持ちとしては、98％と大多数が「感謝」と回答。加えて、「喜んでほしい」（97％）、「健康・元気でいてほしい」（96％）のほか、「休息（休んでほしい）」（78％）、「癒し（癒されてほしい）」（71％）などの回答も多くあがっています。

ちなみに、増税後の買い控えが懸念されていたものの、昨年と比べると母の日ギフトの予算の増額を予定している人は17％と2割近くにのぼりました。その理由として、「収入が上がったから」（21％）、「臨時収入・ボーナスが入ったから」（14％）といった景気の影響を感じさせるものや、「今年は（お母さんにとって）記念すべき・節目の年だから（還暦・退職など）」（18％）、「（自身が）社会人になったから」（13％）などがあげられ、収入増加や社会人になったなど自分自身の変化が増額のきっかけである傾向が大きいようです。

母の日ギフトの具体的な内容について、「今年贈りたい」と思っているギフトの1位は「花」（37％）、次いで「食品・飲料」（23％）、「服・アクセサリー類」（15％）、「雑貨（ハンカチ・小物など）」（12％）が上位を占めています。こうした母の日ギフトを選ぶ理由としては、「明るい気分でいてほしいので、花のアレンジメントを贈る」という人が多く、母の日の定番は「花を贈る」ことだといえるでしょう。

■消費税増税とゴールデンウイーク明けの消費動向は！福岡や北九州都市圏での母の日販売状況

北九州都市圏内での5月11日の花商販売は、晴天の影響もあって全体的に好調で、店頭には多くのお客様が来店されたとのこと。店頭販売だけでなく、インターネット販売でも予約注文が好調。増税にともなって料金は高くなりましたが、それほど影響も受けず例年より注文が多かったようです。

北九州近郊で販売をしている花店に話をうかがったところ、例年カーネーションなどの鉢花が多く売れ、今年は1500円程度の花束が好調。定番のカーネーションの花束やバラなどを使った3000円程度のアレンジメントや花束のほか、母の日制定108年の報道の影響もあり、白いカーネーションの花束の注文もあったそうです。また、鉢物についてはピックなどを付けたカーネーション鉢が、母の日前日の土曜にはほぼ7割が完売。3000円相当のカゴ付き商品やラベンダーやカラーなどをラッピングした商品などがどんどん売れていったそうです。お客様の比率は、女性7に対し男性3。子ども連れや20代の新婚さんの姿がめだち、購入単価も昨年より上がって対前年120％の売り上げがあったとのことです。

福岡都市圏でも、各地域の花店には母の日に贈る花ギフトを購入しようと多くのお客様が来店しました。商業都市圏である福岡市中央区での花店では、男性客が多く、ときには40〜50人ほどのお客様が並ぶ光景もみられました。ほかの地域の花店では、女性を中心に子ども連れの家族などの来店が多かったようです。

福岡市南区で販売している花店では、5月9日にテレビ番組（テレビ西日本『ももち浜ストア』）で紹介したカーネーションのアレンジが好評でした。5000円のアレンジを、番組企画5名様限定の4000円で販売したところ、その日の午前中には売り切れ状態。翌日は、テレビで紹介されたアレンジを求めて遠方から来店したお客様もいたそうです。売れ筋は、テレビ放映の影響によるアレンジメント、鉢物ではアジサイやミディ胡蝶蘭の注文が多く、商品単価としては平均4500〜4800円相当の商品が売れていったようです。

毎年、4月中に母の日用の注文が多いとのことですが、今年は消費税増税の影響やゴールデンウイークが5月6日（火）まで続いたこともあって予約が鈍く、例年と比べて約3分の2の注文しかなかったそうです。5月7日（水）まで様子をうかがいながら花を仕入れましたが、結果的に5月9日（金）から5月11日（日）には、多くの来店客があり、対前年140％の売り上げがあったそうです。

■北九州・福岡花市場での母の日の状況について

〈福岡花市場〉

切花は、4月後半より冠婚葬祭の需要が少ない状況のなか、入荷量は全体的に少なめに推移していましたが、5月に入り母の日が近づくにつれて入荷増となり、5月2日（金）〜9日（金）入荷量は対前年102％と推移。鉢物も切花同様に前年対比102％の入荷量となりました。

今年は5月2日（金）から、母の日に向けての取引が活発になる予測を立てておりましたが、消費税の増税後の初めて物日ということと、各買参人とも昨年より注文受注件数が少ないことから必要最小限の仕入れの傾向が強く、当初予測したほど活発な取引とはなりませんでした。

また、鮮度のよい商品を確保したい思惑と消費者の注文が遅いことからギリギリまで市場への発注を遅らす買参人が多く、5月7日（水）納品分の注文が多かったことが特徴でした。

テレビ番組の影響もあって、カーネーションはレインボーカラー等の特殊カーネーションが問際での注文や問い合せが多く、バラなどの注文も好調でした。

鉢物については定番のカーネーションをはじめ、アジサイ、バラ、リーガースベゴニア、特設展示場で提案していたバスケットに入った鉢のアレンジメントなどの注文も多かったようです。

〈北九州花市場〉

カーネーションの鉢花の入荷量は減ったものの、鉢物全体では昨年と同様の入荷量となり、切花では約2万本多い入荷量がありました。入荷のピークは、切花は5月5日（月）の約38万本、鉢物は5月6日（火）の約11万鉢でした。今回の母の日商品では、定番のカーネーションのほか、アジサイ、ラベンダーが好調。また、テレビ番組の影響もあって、レインボーカーネーションやピンク色のカーネーションなどの問い合せが多かったようです。

■母の日に向け、テレビで事前PRを行いました

母の日に向け、花の消費拡大のためのPRをしようと、福岡県農業総合試験場の育成品種の八重手まり咲きアジサイ「筑紫ルビー」と「筑紫の舞」が、RKB『今日感テレビ』および夕方のローカルニュースRKB『今日感ニュース』で紹介されました。

とくにニュースでは、花店での今年の花のトレンドやアジサイ筑紫ルビーの特徴や楽しみ方などのインタビューが放映されたため、翌日はこれらに関する問い合わせが各花店へ多くあったそうです。この模様は、RKB今日感テレビでは、4月24日（木）15時40分ごろ、RKB今日感ニュースでは5月1日（木）18時35分ごろ放送されました。

TOPICS トピックス

「感動」「喜び」「やすらぎ」を与えてくれた花に感謝！「花の慰霊祭」が福岡花市場でとり行われました

2013年度は、猛暑などによる気候の変動や円安による原油高騰など生産農家を取り巻く環境は厳しさを増すとともに、生産量も例年より少なめとなり、花業界にとっては大変厳しい年でした。しかしながら、この一年私たちの生活を支えてくれた花に感謝し、花の霊を慰めるための「花の慰霊祭」が4月9日（水）午前7時から福岡花市場場内でとり行われました。参加者は福岡県花卉農協、福岡花商協同組合、福岡生花仲買組合、福岡県農林水産部園芸振興課、福岡市農林水産局農林部農業振興課、西日本華道連盟、帝国華道院九州連合会、JA糸島、JA福岡市、JAふくおか八女、JAにじ、JAたがわ、JA筑前あさくらの13団体、約100名が出席。生花を生業にしている関係者が多くの人たちを楽しませ、暮らしを支えてくれたすべての花たちに感謝の祈りを捧げました。祭壇のまわりには県内の産地から献花いただいた13品目約2千本の花きを使用し、祭壇用のスタンド花や約30個のフラワーアレンジメンを設置、会場を華やかに飾りました。

祭壇を前に櫛田神社の神主様より約1時間供養を行っていただいたあと、花のすばらしさや慰霊祭の意味を知ってもらおうと飾っていたフラワーアレンジメントを福祉施設などへ寄贈しました。

当日は、地元放送局（NHK福岡放送局・TNCテレビ西日本・RKB毎日放送）が取材に訪れ、お昼から夕方にかけて慰霊祭の模様をはじめ、もっと多くの方々に花を楽しんでいただくよう花き業界の取り組みなどの放映がありました。

この花の慰霊祭は、年度がはじまる4月に毎年行っていますが、福岡市南区清水町に花市場があった1979年（昭和54年）までは、福岡市西公園内の光雲神社にて花祭り「花供養」としてとり行われていました。1980年（昭和55年）に福岡市東区に福岡花市場が移転後、「花の慰霊祭」として行われるようになり、今年で34年目になります。

イベントリポート ●博多と天神を結ぶ10万本チューリップロード「福博花しるべ」

●10万本のチューリップが博多〜天神間の道に咲き誇る「福博花しるべ」が今年も開催されました

「福博花しるべ」は、都心部の魅力と回遊性の向上を目的とし、地域の方々や団体・企業のご協力のもと、博多と天神を結ぶ約2kmのルートを約10万本のチューリップで彩ることで、地域一体となった持続的なおもてなしのまちづくりをめざして、平成23年春の九州新幹線全線開通を契機に発足しました。

第4回目の開催となったこの春は、開催テーマを「花に集う、まちに遊ぶ」と設定し、ガーデニングショーのほか、NHKの大河ドラマで放映されている黒田官兵衛人気にあやかろうと、JR博多駅から承天寺、東長寺、櫛田神社、警固公園までを歩くまち歩き企画や、福岡市の花生産地北崎地区でつくられた花材を使ったフラワーアレンジメント教室などが催されました。

JR博多駅前からはかた駅前通り・キャナルシティ博多・清流公園・天神中央公園・福岡市役所・警固公園まで約2kmにわたるチューリップロードでは、福博花しるべの開催期間（3月下旬〜4月中旬）はいつでも楽しんでいただけるように、地元の小学生や市民・団体・企業が力をあわせ、11月上旬から12月上旬にかけて早咲きと遅咲きのチューリップの球根を地植えしました。早咲きのチューリップは3月上旬より開花がはじまり、4月上旬に散りはじめ、遅咲きのチューリップも3月中旬過ぎには開花し、4月下旬に散りはじめました。

また、4月5日（土）〜4月13日（日）に警固公園で開催された「福博花しるべガーデニングショー」では、花や緑があふれるまちづくりの大切さを広く知ってもらおうと多彩なイベントが行われました。日頃から花壇づくりの活動を行っている市民のみなさんによる花壇コンテスト、規模、内容ともに九州最大の出展数誇るハンギングバスケットコンテスト（出展数：93基）、さまざまな花苗や観葉植物などを販売するガーデニングショップ、会場内でゆっくりくつろげるカフェコーナーなどを設けました。土・日曜にはフラワーアレンジメント、こけ玉盆栽づくり、多肉植物の寄せ植え教室などのワークショップ、パルーンアーティストによるステージショーなどが行われ、子供から大人まで楽しめるイベントが満載でした。

9日間行われたガーデニングショーでは、約2万4千人の来場があり、会場では写真撮影をはじめ、花壇に立ち止まって色とりどりの花を楽しんでいる風景が見られました。当花卉農協でも「WELCOM」をテーマに、花壇の製作協力を行いました。